

令和6年度第2回大分県高齢者福祉施策推進協議会 議事概要

1 日 時 令和7年2月25日（火）13：30～15：00

2 会 場 大分県庁 本館 2階 正庁ホール

3 出席者

（委員）20名中17名出席（うち2名代理出席）

佐藤会長、阿部委員、市川委員、伊藤委員、内田委員、加来委員、川野委員、
河村委員、後藤委員、下田委員、山添代理、千嶋委員、加藤代理、中野委員、
藤澤委員、牧（久）委員、森崎委員

※欠席：上白木委員、工藤委員、牧（達）委員

（事務局）

渡邊福祉保健部審議監、

渡邊高齢者福祉課長、佐藤（憲）課長補佐（長寿・援護班総括）

白岩課長補佐（地域包括ケア推進班総括）、

大塚主幹（介護保険推進班総括）、須浦主幹（介護サービス事業班総括）、

廣門課長補佐（人材確保・DX推進班）、麻生主任（長寿・援護班）

ほか関係課室（幹事等）

4 議 題

（1） 令和7年度大分県当初予算案等について

（2） 令和7年度地域医療介護総合確保基金の県計画（介護分）について

（3） 意見交換

5 会議経過

議題（1）（2）について、事務局から以下の資料に基づき説明を行った。

- ・資料1：令和7年度大分県当初予算案等について
- ・資料2：令和7年度高齢者福祉課の主な事業概要について

（3）の意見交換も含めた、主な質疑・意見は以下のとおり。

<大分県の要介護認定率について>

●川野委員（大分県退職者団体連合）

大分県の要介護認定率が全国平均よりも低いことに対して、どういった分析をしているのか。

○渡邊課長

地域ケア会議の開催や高齢者の通いの場の整備についての成果がでたとの認識。

○渡邊審議監

大分県は自立支援型ケアマネジメントを全国に先駆けて実施してきた。国からも評価を
してもらっている。

<自立支援型ケアマネジメント体制強化事業について>

●千嶋委員（大分県老人福祉施設協議会）

【資料2/P1】地域包括支援センターが行うアセスメント・予防プランの作成をICTの活用により、経験や知識に頼らずとも予防プランが作成可能になると記載があるが、これは本当か。利用者のニーズの汲み取りは経験によるところが大きいのでは。

○渡邊課長

ケアマネージャーの経験や知識が全く必要でないという意味ではなく、アセスメントの重要性は変わらないとの認識である。ICTの活用は現場負担を軽減するための補助的なものであり、最終的にはケアマネージャーの知識や経験を踏まえた上で判断していただくことになる。

<認知症施策について>

●伊藤委員（大分県社会福祉士会）

【資料2/P3】認知症バリアフリーについて、旅館、金融、小売等の環境整備だけでなく、ライフラインに関連した企業に関しても今後考慮していただきたい。

○渡邊課長

ご意見を踏まえて取組を進めていきたい。

<介護現場の革新推進事業について>

●河村委員（大分県老人保健施設協会）

補助金限度額の1千万について、金額が大きく手を出せるところは限られてくると思うので、もっと細かい使い方をする施設にも補助できる仕組みがあるとよい。

○渡邊課長

国に助成制度の拡充について要望していきたい。

<地域ケア会議について>

●阿部委員（大分県薬剤師会）

地域ケア会議に参加しているが、フィードバックが十分でないのでは。

○渡邊課長

十分なフィードバックができるよう市町村に助言をしていきたい。

<各関係団体との連携について>

●阿部委員（大分県薬剤師会）

現場で働いていて、医療機関や介護業界の関連団体等のそれぞれの窓口について共有ができる仕組みが必要だと感じる

○渡邊課長

要望として承る。

その他、時間内に回答できなかったものについては後日事務局より書面にて回答をすることとした。

（議事は終了し、進行は事務局へ戻る）

○高齢者福祉課 佐藤（憲）課長補佐（長寿・援護班総括）

長時間にわたる熱心なご協議に対するお礼を伝え、第2回推進協議会を閉会した。